

【23_119技術系メルマガ】『損を小さく』＝堅いガードで戦う ということ

〇〇さん

こんにちは、クロです。

最近の技術系メルマガでは、特に『損切り』に対する考え方にフォーカスしたテーマを取り扱っています

実際に事例が無いとなかなかイメージも掴みづらいかもしれません。

そこで、今実施中の『デイトレ講座』でも実際に事例として出した僕のトレード(損切り)事例を使って

『損を小さくして戦う』ことの意味合いをより深く実感してもらおうと思います。

1カ月くらい前のトレード事例ですが、僕の手法でやった時に想定と違ったケースで典型的な損切りとなるものです。

～～以下、講座内メールから一部を抜粋～～

<3/8 MT4時間09:46 GBPUSD(L) 結果:-8.3p>

▼チャート▼

https://kuro-gaki.com/2023_02_dayt/chart/2023-03-08_GBPUSD_L.png

▼目線▼

D、H4/上下空間あり

H1/20MAまでの乖離空間30pips弱

⇒セットアップを見ながら乖離を埋めるH1/G4のロング方向

▼セットアップ▼

M15/ 20MA上抜け、上方向へのMA角度変化

M5/ 40-50MAタッチ(パターン2)

～～

以前、メルマガでも何度か解説した事と重複しますが

僕がエントリーする時の条件は主に2つあって

- ・M15足/40-50MA + M5足/100MA タッチの連動(パターン1)
- ・M15足/20MA + M5足/40-50MAタッチの連動(パターン2)

のどちらかで仕掛けると決めており、それが上位足の目線(主にH1足のグランビルに基づくトレンド)と一致した時にエントリーとなります。

今回は、H1/20MAに対する乖離方向の空間を狙ってのロングだったので、グランビル4番を想定した目線。

▼グランビルを知らない人へ参考▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-08-15.png

その前提で、自分の型である『パターン2』が揃ったと踏んだのでエントリーを決断。

しかしながら、少々オーバーシュートしてレンジ圏の揉みあい巻き込まれたことで、前もって決めた損切位置でロスカットした。

と、こんな感じになります。

『損を小さく』=ガードを固める を実践するには、そもそも自分がどんな狙いのトレードをするのか一貫して決めておく必要があります(これが『型』)。

そのうえで、どんな条件で損切りをするのかも、必ずセットで決めておく。

金額で決めてもいいし、pips固定でもいい。何が正しいというのはありませんから、とにかく自分の『基準』を定め、決めたらそれを徹底して守る事。

これも繰り返しになりますが、その決め事を信頼して守るために、検証とテストによって自分の戦い方による勝率・利回りを把握するわけです。

損を小さく、堅いガードで というのは、何も損切幅をむやみやたらと小さくして損切り貧乏になることでは決してありません。

必要最低限のリスクをしっかりとって、勝つときにしっかりと利益を貰う。

この仕組みを作るという意識の一環だと理解して頂ければ幸いです。